

遊歩道の通行のあり方

KEY WORD #多摩ラボ#通行#まちづくり#社会実験



これまでの流れ

10月末に実施した社会実験には、これまでのワークショップに参加した方のうち複数名がボランティアにご協力いただきました。

その後、ボランティア参加者を中心としたフィードバック会をきっかけにテーマ別ワークショップが動きだし、「遊歩道の通行のあり方」については、1/31(水)に意見交換を行い、3月に予定している社会実験について検討を重ねてまいりました。

開催日時 2024年2月17日(土)

場所 中央図書館 活動室1

募集人数 上限 30名 → 参加 8名

参加方法 専用フォームで申込み

内容 「遊歩道の通行のあり方」に関する検討について、これまでの経過を説明。3月に実施する社会実験について、現地見学や学識経験者のアドバイスを踏まえながら意見交換をいたしました。

当日のタイムスケジュール

- 10時～ 遊歩道の通行のあり方に関する検討の経過を説明
- 10時20分～ 現地で原寸大の路面表示を確認
- 10時45分～ 通行のあり方や社会実験に関する意見交換
- 12時15分 終了

当日出た主な意見

- 改修後のレンガ坂は緑が少ないため、樹木等を植えるべきである。樹木が多くなれば、自転車は走りにくくなるので、自然とスピードが抑制されるのではないかと。
- 自転車誘導空間を道路の中央付近に設定すると、歩行者が左右に分離されてしまうイメージだ。むしろ通行区分を分けないか、あるいは自転車誘導空間をどちらか一方にする実験も行ったかどうか。
- 遊歩道は「歩行者優先」なのだから、わざわざ歩行者に対して通行位置を示すことはない。最小限の路面表示やバナーフラッグなどで自転車走行者に対してのみ注意喚起するべきである。

市は、3月の社会実験では路面表示を最小限に留め、自転車走行者に対して注意喚起することとした。なお、今後の暫定整備に向けた通行データの分析やアンケート調査等により社会実験の検証を行う。加えて、中長期的に通行者のマナーの醸成に努めていく。